

漁業集落の地域環境に関する意識調査

宮崎大学工学部 正会員 杉尾 哲 出口近士

南九州大学 北川義男、 医療法人 野中義之

1. まえがき

現在、漁港は後継者不足や生活環境の改善などの社会的問題を抱えている。また、これからの漁港整備は、水産業機能の増進だけでなく、地域の自然環境を活かした空間の形成などを図るよう期待されている。このような状況の中で、漁民がこれらについてどの様に考えているかは、漁業集落の整備を進めていく上で非常に重要である。このようなことから、宮崎県内の4地域の漁業集落について漁業協同組合の組合員を対象とした意識調査を実施して検討した。

2. 調査の実施

まず、調査対象地域を選定するために、県下の27漁業協同組合を対象として、地元水揚げ高、地区外水揚げ高、組合員外水揚げ高、養殖水揚げ高、動力船数、販売取扱高、製氷・冷凍量の7項目についての組合員一人当たりの基礎データを用いた主成分分析を行い、累積寄与率が0.937となった第3主成分までの主成分スコアを用いたクラスター分析を行って分類した。その分類結果に漁業集落環境整備事業の実施状況、リゾート計画の計画区域などを加味して、調査対象地域を北浦、門川、青島、南郷の4地域と決定した。調査対象者の選定は、各組合の名簿を入手して、乱数によるランダムサンプリングによって行った。調査票は調査員が対象者宅を直接訪問して配布し、翌日までに回収した。調査実施結果は表-1の通りである。

表-1 調査実施結果

地域名	配布数	回収数	回収率	最多年齢	平均所有艘数
北浦	80	69	86%	50代	3艘以上
門川	70	49	70%	50代	1艘
青島	70	53	76%	60代	1艘
南郷	85	46	54%	40代	無

3. 漁業集落住民の潜在意識

生活環境、漁業の振興、地域の活性化、海域の環境保全の4テーマを設定して、「公民館などの施設」や「地域おこしの企画」などの18事項を選定し、これらの中の特に関心を持っている事項を選択させた。その反応から数量化理論第3類を用いてカテゴリー数量を求め、第3軸までのカテゴリー数量をデータとしてクラスター分析を行って、18事項が漁民にどの様に捉えられているかを把握した。その結果は、北浦では「台風や津波などの災害」と「水産物の増養殖」を最も類似した事項と認識し、テーマ設定時とは異なる分類で漁業の振興→生活環境→地域の活性化の意識連鎖になっており、門川では「水産物の加工」と「海洋性レジャー施設」を最類似事項と認識して、漁業の振興→生活環境→地域の活性化→その他の意識連鎖になっている。青島では「水産物の直売店」と「浮遊物による海洋汚染」を最類似事項と認識して、漁業の振興→生活環境→地域の活性化→その他の意識連鎖に、南郷では「水産物の直売店」と「漁業後継者の育成」を最類似事項と認識して、漁業の振興→生活環境→地域の活性化→その他の意識連鎖になっている。

4. 生活環境に関する満足度

「集落内道路の安全性」や「下水道の整備状況」などの生活環境に関する18項目についての満足度を4段階で尋ね、それらの総合判断としての満足度を外的基準として数量化第2類を用いて解析し、総合的な生活環境の満足度がどの項目に影響されて決定されていて、どの様な改善要求を持っているのかを把握した。外的基準への反応数を表-2に、18項目中の代表的な項目の偏相関係数を図-1に示す。その結果は、北浦では「老人の保養施設の整備状況」、「子供や老人が遊べる公園」、「子供の教育施設の整備状況」の項目が0.8以上の偏相関係数で不満側に反応したサンプルが多いことから福祉関

表-2 外的基準への反応数

地域名	生活環境		リゾート計画	
	満足	不満	推進	反対
北浦	32	36	33	35
門川	27	19	29	17
青島	27	19	19	27
南郷	25	11	25	11

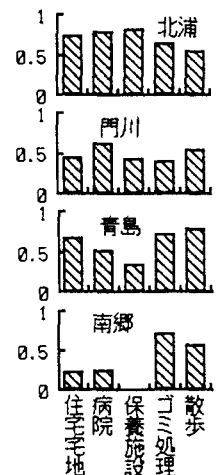


図-1 生活環境項目の偏相関係数(一部)

係施設について強い改善要求があると考えられ、門川では偏相関係数が全体的に小さく「病院などの整備状況」と「バスや汽車等の交通機関の便利さ」の項目が0.6程度の偏相関係数で満足側に反応したサンプルが多いことから現在の生活環境にほぼ満足していると考えられる。青島では「散歩をする景色のよい場所」と「公民館の整備状況」の項目が0.8以上の偏相関係数となっていて満足側に反応したサンプルが多いが、「津波や高潮に対する防波堤等の整備状況」の項目も0.79の偏相関係数で強い改善要求がある。南郷では偏相関係数が全体的に最も小さな値を示していて、生活環境に対する反応が多様化しているが、0.5以上の偏相関係数となっている「ゴミ処理施設の整備状況」と「散歩をする景色のよい場所」、「日常の買い物の便利さ」への反応が総合的な満足度を決定していることが分かった。

5. 地域の活性化への積極性に対する意識

「地域おこしのリーダーの育成」や「海洋性スポーツ大会の開催」などの19項目について、その賛否を4段階で尋ね、その中の「海洋性リゾート計画の推進」を外的基準として数量化理論第2類を用いて解析して、リゾート計画の推進がどの項目に影響されて決定されているのかについて把握した。外的基準への反応数を表-2に、19項目中の代表的な項目の偏相関係数を図-2に示す。その結果は、北浦では0.64以上の偏相関係数で「高齢者の活用」、「海洋性スポーツ大会の開催」、「都市からの観光航路の開設」の推進と「漁船オーナー公募制の導入」の反対に影響されており、門川では偏相関係数が全体的に小さい中で0.58以上の偏相関係数で「高齢者の活用」、「都市からの観光航路の開設」、「郷土の芸能と工芸の育成」の推進に影響されていて、サンプル全体としても地域の活性化のためであれば海洋性リゾート計画を積極的に推進して欲しいという意識がみられる。青島では「味覚を楽しむ会員の募集」と「地域おこしのリーダーの育成」は0.78以上の偏相関係数になっているが反応が複雑であり、0.63以上の偏相関係数で「水産物の流通と加工の増進」、「漁業協同組合の整備強化」、「海洋性スポーツ大会の開催」の推進と「高齢者の活用」、「郷土の芸能と工芸の育成」の反対に影響されていて、全体的な反応から海洋性リゾート計画の推進よりも漁業の発展によって地域の活性化を図ろうとする意識がある。南郷では0.85以上の偏相関係数で「漁業協同組合の整備強化」、「高齢者の活用」、「工場の誘致」の推進と「観光漁業との調整と開発」、「地域おこしのリーダーの育成」の反対に影響されている。

6. 海洋性リゾート計画に対する施設の必要度

「巨大水槽の水族館」や「ヨットハーバー」などの19施設について、その必要性を4段階で尋ね、5.で尋ねた「海洋性リゾート計画の推進」を外的基準とした解析を数量化理論第2類を用いて行って、リゾート計画を推進するのにどの施設を必要と考えているのかについて把握した。19施設中の代表的な施設の偏相関係数を図-3に示す。その結果は、北浦では「海水プール遊泳場」と「巨大水槽の水族館」は0.72以上の偏相関係数になっているが反応が複雑であり、0.65以上の偏相関係数で「魚釣り公園」、「直獲れ海産物のレストラン」を必要とし、「水産加工品や鮮魚の直売市場」、「郷土の歴史と文化の資料館」を不要と考えている。門川では偏相関係数が全体的に大きくなっていて、0.85以上の偏相関係数で「マリンスポーツの研修施設」、「イルカショーなどの大規模遊技施設」、「魚釣り公園」、「直獲れ海産物のレストラン」の建設を必要と考えている。青島では「ヨットハーバー」と「郷土の歴史と文化の資料館」、「巨大水槽の水族館」が0.57以上の偏相関係数になっており、「巨大水槽の水族館」を不要と考えている以外は反応が複雑である。南郷では0.64以上の偏相関係数で「海水プール遊泳場」、「魚釣り公園」、「水産加工品や鮮魚の直売市場」を必要とし、「マリンスポーツの研修施設」を不要と考えている。なお「遊漁船」と「ヨットハーバー」については4地域とも多くの漁民が不要と考えている。

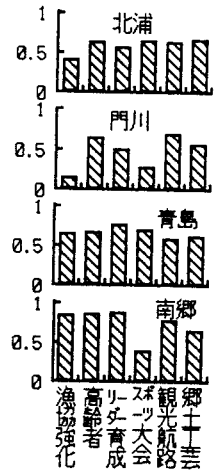


図-2 活性化項目の偏相関係数(一部)

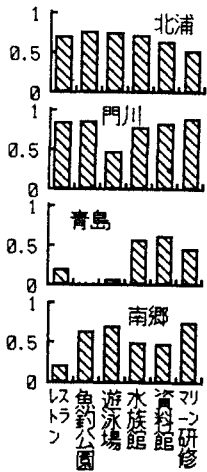


図-3 リゾート施設の偏相関係数(一部)